



本日、山形県立米沢興譲館高等学校創立百三十八周年記念式典を開催いたしました。激動の近現代にあって、明治、大正、昭和、平成、そして令和と、本校が百三十八年という長きにわたり歴史を刻んできました。卒業生の皆様をはじめ、保護者の皆様、地域の皆様の支えのお陰と改めて感謝申し上げます。

長い歴史と伝統を誇る本校が、人々のどのような願いの中、どのような目的をもって創設された学校なのか、その建学の歴史を、今ここに学ぶ皆さんと共に振り返ることは、今ある自分を見つめ、自分の未来に思いを馳せるため、大変意義深いものがあります。一年に一度の創立記念日というのは、先人の想いを知り、それを心に留め、未来の自分を思い描く日であると思います。私自身、今日の日を迎えるにあたって、本当に久しぶりに、米沢の歴史、興譲館の歴史を勉強する機会をいただきました。薄学ながら、皆様と共有したいと思います。

時は、今から二四八年前の安永五年(一七七六年)に遡ります。一七七六年は「アメリカ独立宣言」の年として、歴史的にも記憶されている年ですが、ここ米沢では、第九代米沢藩主上杉鷹山公の生涯の学問の師であった細井平洲先生が、旧米沢藩の藩校で「興譲館」と命名していた講堂において、初めて講義をされた年であり、その日が九月十九日。本校の創立記念日の由来となっています。

関ヶ原の戦いの後に領地の減封や凶作が重なり、当時の米沢藩は財政難に陥っていました。その状況の中で、皆さんと同じ十七歳で家督を継いだ鷹山公は、大改革を成し遂げるためには人材育成が最も重要と考え、優れた人材を育成する役割を担う学び舎として「興譲館」を再興されました。「興譲」という語の出典は、儒学の經典の一つ『大学』の「一家仁なれば一国仁に興り、一家讓なれば一国讓に興る」に由来し、本校の校庭には、その原文が記された石碑が建立されております。平洲先生は、人としての思いやりや慈しみの心、他を尊ぶ謙虚な心を持てば、国全体に仁や讓の心が広がり豊かに繁栄するということで命名されたとされています。

そして、学ぶ者の心得として定められたのが学則です。謙虚に学ぶこと、さらに誠実さや勤勉さが大切なことであると説き、知識や武芸を学ぶことはもちろん、高い志と高潔な人格形成を重んじています。この鷹山公と平洲先生の建学の精神は、「自他の生命を尊重し、己を磨き、誠をもって世のために尽くす」「興譲の精神」として、ここに会する皆さんへと受け継がれてきました。

時は明治五年まで進みます。明治維新まもないこの年、学制の公布により、藩校興譲館はその九十五年の歴史を閉じます。その後、暫くの間、私立の形態で授業が継続され、明治七年に私立米沢中学校と名称を変え、米沢藩の旧士族の方々らによって学校が運営されていきます。そして今から百三十

八年前、新たに明治政府から公布された中学校令に基づき、修業年限五年の県立米沢中学校として再出発することとなり、北堀端片町(現在の丸の内地区)に、新しい校舎を起工して落成いたしました。明治十九年九月十九日のことです。この年を学校創立の年として、明治以降の旧制中学時代、大戦後の新制高校時代と、時代の荒波に揉まれながらも、この藩校時代の建学の精神と校風を失うことなく、地域の信頼と期待を受けて歴史を重ねてきました。

戦後、新制高校となった本校は、昭和二十二年「山形県立米沢第一高等学校」、昭和二十五年「山形県立米沢高等学校」、昭和二十七年「山形県立米沢西高等学校」と校名を変えることになりましたが、「興譲館」の文字はありませんでした。校名が現在の「山形県立米沢興譲館高等学校」となったのは、創立七十周年を迎えた一九五六年、昭和三十一年のことです。「興譲館」の文字を入れた校名を切望する同窓会、地域住民による陳情活動により現在の校名に改称されたものです。70周年式典では、「興譲館」の校名復活とともに、本校大正三年卒業の児童文学者で、日本のアンデルセンと称される浜田廣介先生が作詞された現在の「校歌」と、今壇上に置かれている「校旗」が制定されるなど、新生興譲館を宣言するものとなりました。

そしてその三十年後、昭和六十二年、現在の校舎に全面移転となり、創立百周年を機に、興譲館精神について様々な検討がなされ、校歌にも謳われている「人みなを命を崇め わが力わが誠 世のために尽くさん」を勘案しながら、—「自他の生命を尊重する精神」、—「己を磨き 誠を尽くす精神」、—「世のために尽くす精神」という、現在の三つの精神に明文化され、本校の教育精神として掲げられ今日に至っています。

この「興譲の精神」のもと、多くの先輩が、それぞれの時代に、そして今現在も、様々な分野で活躍され、社会に貢献されています。米沢興譲館という学校が、地域社会をはじめ、国の内外から一定の評価をいただいているのも、諸先輩方が築いてこられた足跡に対する社会からの信頼があってのことと思っています。今、このときを共有している生徒の皆さんも、本校の歴史の一端を担う「当事者」です。これまでの歴史を心に刻み、先人たちの歩みに敬意をもって、また今日から一歩ずつ歩んでほしいと思います。生徒の皆さんには、時代の風をしっかりと読み、豊かな人間力を育み、高い志を持って、ありたい、なりたい自分をめざし、世のため人のために努力することを厭わない、心あるリーダーとなって未来を切り拓いていくことを期待しています。